



## 地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクトに関する活動について

---

作成: 令和8年2月17日

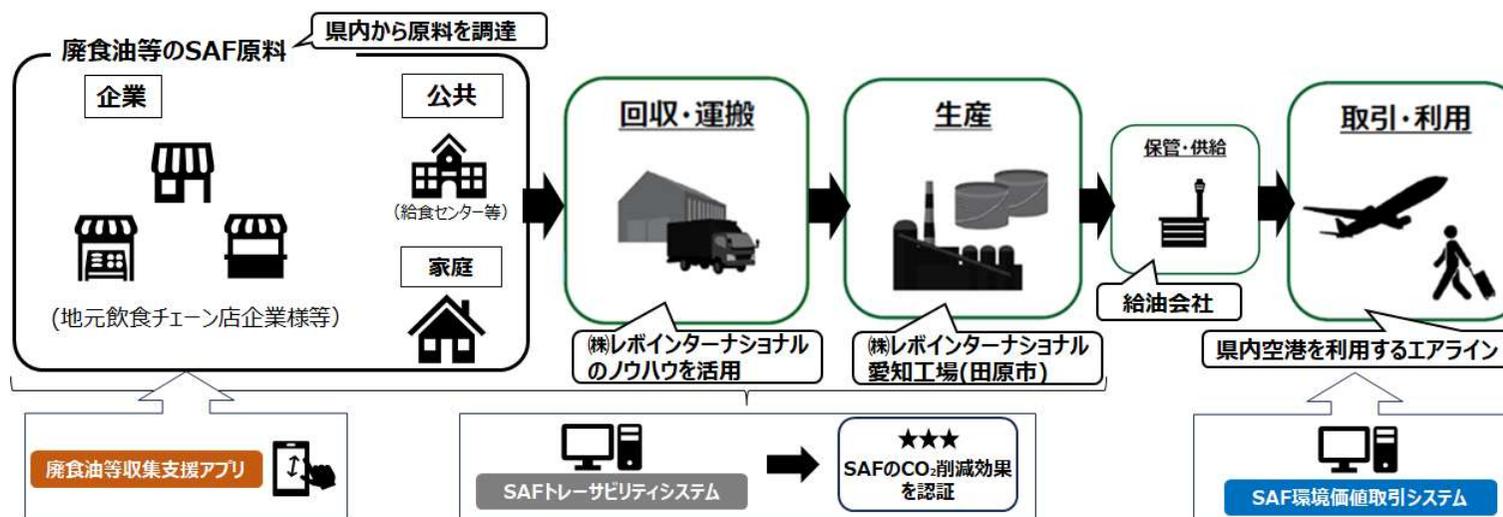
作成者: 株式会社レボインターナショナル

炭素源循環推進部 管理担当課長 立田真介

# 地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクトに係る今年度の活動



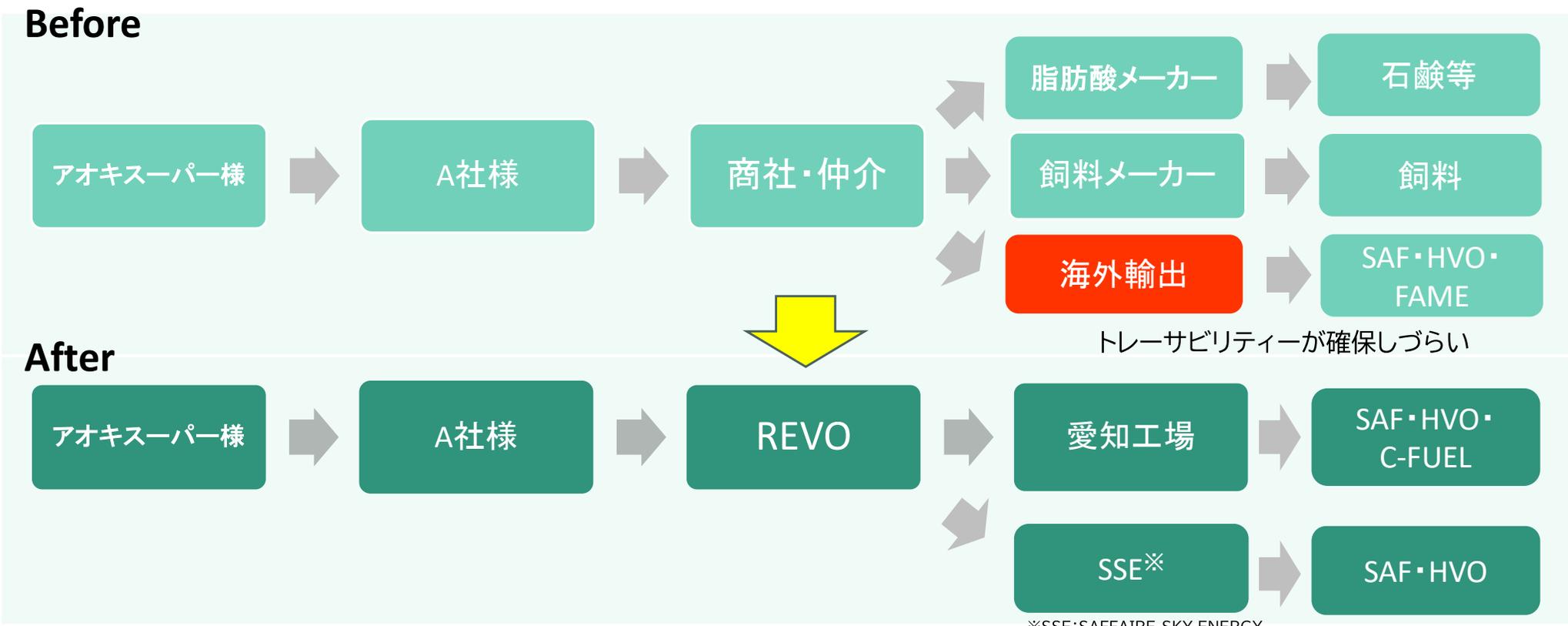
- 本プロジェクトは、当社愛知工場(田原市)のSAF製造プラントにおいて、地域の飲食チェーン店やご家庭等から回収した廃食用油を原料に、当社の特許技術であるCO<sub>2</sub>排出量の少ない製造方法を用いてSAFを生産し、県内の空港を利用するエアラインへの供給を目指すものである。



出所)愛知県ウェブサイト(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/saf-boshu.html>)

- 第1回協議会后、原材料回収スキーム構築WGに参画されましたアオキスーパー様のご協力のもと、愛知県内の新たな地域における家庭系廃食用油の回収を開始した。また、普及啓発活動にも当社が参加し、本地域における認知向上とバイオ燃料原料としての利用促進に貢献しました。
- 当社のSAF製造技術について、現在はASTM認証における規格制定に向けた燃料サンプルの最終分析段階に至っております。このことに合わせ、愛知工場への見学希望者も増加しており、本事業に対する地域の関心の高まりを実感しております。
- 本資料では、これらの活動を紹介するとともに、今年度の進展も踏まえ、今後の協議会への期待について述べさせていただきます。

# 今回取り組んだアオキスーパー様のご協力の取組み



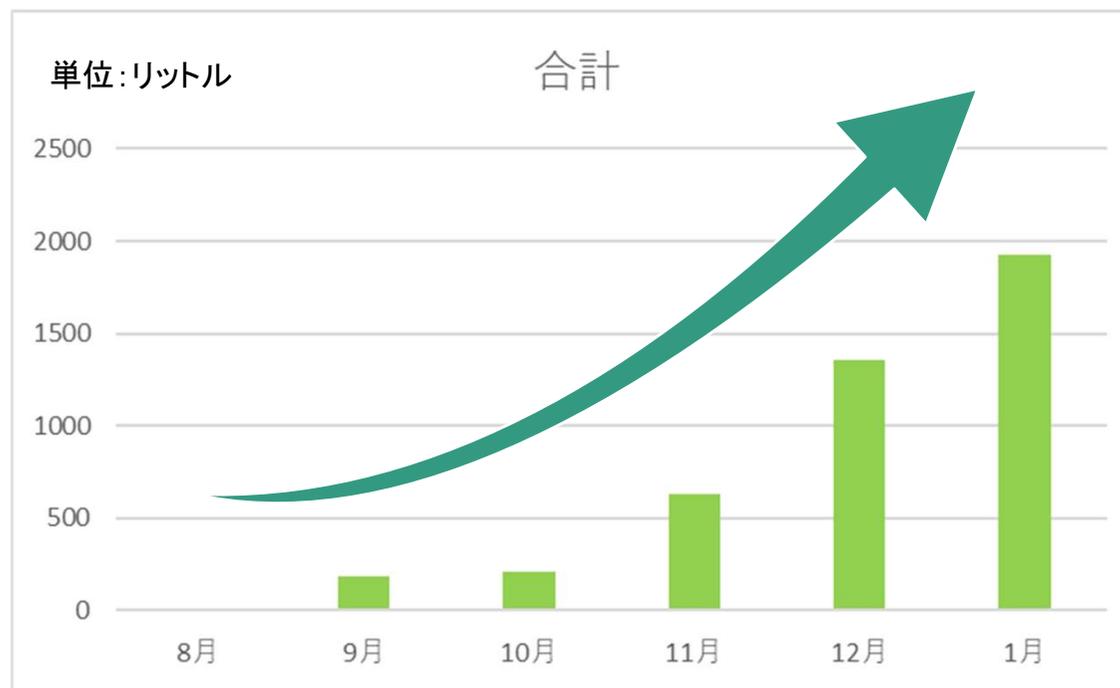
従来は廃食用油のリサイクル用途が特定できず、トレーサビリティーの追跡が困難な状態であったが、フローの見直しにより、SAF原料として明確に活用できる体制を構築いたしました。

# アオキスーパー様における家庭系廃食用油回収の効果



- 2025年8月の開始以来、アオキスーパー様の店頭回収における家庭系廃食用油の収集量の推移は以下のとおり。
- 消費者の認知度向上により、収集量は増加する傾向にある。

アオキスーパー様の家庭系廃食用油 収集量の推移



# アズパーク店様での催し

開催日:2025年12月7日(日曜日)

本年8月より、アオキスーパー様店頭において家庭系廃食用油の回収を行う「すてる油で空を飛ばう」プロジェクトの一環として催しが行われ、アオキスーパー全店舗(県内23市町村・50店舗)での回収開始を記念したイベントが開催された。

本イベントには、協議会会長である大村知事も出席され、先着100名様にJAL様専用のリターナブルボトルが配布された。



# SAF実証設備進捗

## 製品サンプル



当社開発の触媒を用いた低圧水素条件下での炭化水素油の製造実証は、4月の設備稼働から試運転と調整を進め、安定した製品を製造(上記写真)できることを確認いたしました。現在は商用生産が可能な状況にあり、ASTM認証の早期取得(規格制定)を目的とした、燃料サンプルの製造を優先して進めております。

# 愛知工場の視察対応

愛知県議会議員、県内市議会議員御一行  
2026年1月



三河港港湾脱炭素化推進協議会  
2026年1月



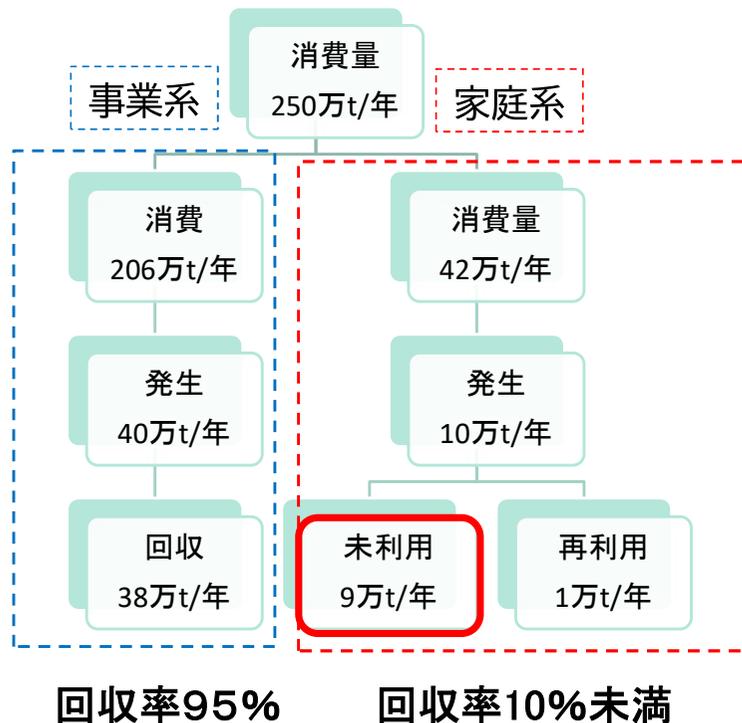
視察では、廃食用油の受入れからSAF製造における、水素化処理や、製品化に至るまでの一連の工程をご覧いただくとともに、原料の品質管理体制や安全対策、設備の自動化による安定運転の仕組みについて説明を行い、参加者の皆様に当社の技術と運営体制への理解を深めていただきました。

また、廃食用油が資源として再活用され、環境負荷の低減や持続可能な燃料の原料へとつながっていく流れについても紹介し、循環型社会の実現に向けた当社の取り組みをご確認いただきました。

質疑応答では活発なご意見やご質問も寄せられ、終始関心の高い視察となりました。

# 家庭系廃食用油のリサイクル状況と課題

## 廃食用油のリサイクル状況



### (1) 認知・意識の不足

- ・多くの家庭で食用油の正しい捨て方を知らない人が多いという調査データがある。
- ・「廃食用油をリサイクルできる」という選択肢自体が知られていないことがある。

### (2) 回収インフラ・仕組みの不足

- ・事業系(飲食店など)からの廃油はほぼ回収されている一方、家庭系は回収インフラが十分に整っていない自治体が多い。
- ・多くの自治体ではまだ月1回や資源回収ステーションへの持ち込みといった限定的な回収方法しかないこともある。

### (3) 手間・不便さ

- ・家庭で油を固めたり分離したりする手間を面倒に感じる人が多い(意識調査でも廃棄処理を負担に感じる人が約6割)。
- ・回収拠点が家から遠い、持ち運びや容器準備が必要などのハードルもある。

### (4) インセンティブの欠如

- ・回収しても家庭に直接メリット(ポイント、割引など)がないため、行動変容の動機付けが弱い。

### (5) リサイクル利用先の限定

- ・廃食用油はバイオディーゼル燃料(BDF)や持続可能な航空燃料(SAF)などの有望な再利用先があるが、こうした用途・価値の情報が十分に広まっていない。

# 家庭系廃食用油のリサイクルを促進させるための具体策



## (1) 情報発信・教育の強化

- ・自治体や企業による啓発キャンペーンを強化。  
廃食用油が資源であり、リサイクルにより環境負荷低減につながることを伝える。
- ・小学校や地域イベントでのワークショップ・チラシ配布などで、正しい廃食用油処理方法へ理解を深める。

## (2) 回収インフラの整備拡充

- ・スーパー・公共施設・マンション等に常設の廃食用油回収ボックスを増設する。  
→ 実際に首都圏のマンションで家庭系廃食用油回収の取り組みが進んでいる例もある。
- ・指定回収日にすぐ出せるように見える化し、定期回収を仕組み化。

## (3) 参加インセンティブの導入

- ・回収協力でポイントを付与、地域通貨や商店での割引制度など直接的なメリットを設ける。
- ・専用リターナブルボトル回収により利用者の負担を下げることにより、利用者からの声がポジティブになっている。

## (4) 収集～リサイクルまでの連携強化

- ・収集した廃食用油がどんな製品に生まれ変わるかを見える化して情報発信する(例: バイオディーゼル燃料・SAF)

## (5) 自治体や民間の連携モデルの推進

- ・複数自治体＋企業での連携モデル事業(収集・輸送・再利用)を構築し、成功事例を全国展開する。